

## 単元名 私たちの生活と政治 国民主権と日本の政治

配当時間 17時間

- 単元の目標 (1) 日本の政治のあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方、法に基づく公正な裁判の保障及び地方自治の基本的な考え方について理解するとともに、日本の政治のしくみに関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、民主主義や法の支配といった見方・考え方を生かしながら、多面的・多角的に考察・議論し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 国民主権と日本の政治について、現代社会にみられる課題や解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220202\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習問題をつかみ、民主政治のしくみについて調べる。</p> <p>○ 大単元の導入を振り返る。</p> <p>● みんなの願いを実現するために、どのようなしくみで政治が行われているのだろう。</p> <p>★ 民主政治には、どのようなことが大切なのだろう。</p> <p>○ 政治のはたらきと権力分立について調べる。</p> <p>○ 民主主義と国民の政治参加のしくみについて考える。</p> <p>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■ 民主政治をよりよく運営していくために、私たちはどのように政治に関わっていけばよいのだろう。</p> <p>2 選挙の意義としくみについて考える。</p> <p>★ 日本の選挙制度には、どのようなしくみと特徴があるのだろう。</p> <p>○ 選挙の原則について調べる。</p> <p>○ 選挙制度について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の選挙制度は小選挙区制と比例代表制を組み合わせるなど、様々なしくみがある。それにより、より多くの国民の意見を政治に反映させることができ、みんなに公正な政治に近付けている。</li> </ul> <p>○ 選挙制度の問題点について調べる。</p> <p>3 国民と政治をつなぐ政党について考える。</p> <p>★ 政党はどのような役割を果たし、政党政治にはどのような特徴があるのだろう。</p> <p>○ 日本にはどのような政党があるかを発表し、なぜ複数の政党があるかを考える。</p> <p>○ 政党政治のしくみについて調べる。</p> <p>○ 近年、連立政権が続いている理由について考える。</p> <p>4 政治参加と世論について考える。</p> <p>★ 国民の政治参加とマスメディアには、どのような関係があるのだろう。</p>	<p>・ 教P. 34～P. 35</p> <p>・ 教P. 78～P. 79</p> <p>・ 教P. 34～P. 35の内容を振り返らせ、みんなの意見を聞いてから多数決を行っていたことを思い出させる。</p> <p>・ この光景が政治の縮図であることを知らせ、実際の政治がどのように行われているのかに関心をもたせる。</p> <p>・ 民主主義や法の支配の考え方の大切さに着目して追究させる。(民主主義、法の支配)</p> <p>・ 教P. 78～P. 79</p> <p>・ 資料を基に、権力が集中している場合、国民にどのような不利益が生じるのかを捉えさせる。</p> <p>・ 多くの国が間接民主制を採用しているが、多数決を行う際には注意が必要であることを、アクティビティや「深めよう」に取り組みせることで捉えさせる。</p> <p>・ 教P. 80～P. 81</p> <p>・ 選挙制度の意義や特徴について、効率と公正に着目して追究させる。(効率と公正)</p> <p>・ 明治時代の選挙の風刺画と現在の選挙の写真を比較し違いを探させることで選挙の原則に気付かせる。</p> <p>・ アクティビティに取り組みせることで、様々なしくみを組み合わせることで、より多くの国民の意見を政治に反映させようとしていることに気付かせる。</p> <p>【評】 間接民主制における選挙制度の特徴について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 一票の格差については、本質を理解しづらい生徒が多い。分数を例として用いるなどして分母(有権者)が多いほうが一票の価値が低くなることをつかませる。</p> <p>・ 教P. 82～P. 83</p> <p>・ 政党がなぜ必要なのかを、対立と合意や民主主義に着目して追究させる。(対立と合意、民主主義)</p> <p>・ 国民の意見や利益が多様化していることから様々な意見を政治に反映させる受け皿として複数の政党が存在していることに気付かせる。</p> <p>・ 資料を基に、政党を通して多様な国民の意見から生じる対立を国会において調整していることを捉えさせる。また、国民から多数支持された政党が政策を実現していくという民主主義の理念が実際に反映されていることに気付かせる。</p> <p>・ 教P. 43にある「憲法改正の手続き」の資料中の憲法改正の発議に必要な議員数に着目させ関連付けて考えさせる。</p> <p>・ 教P. 84～P. 85</p> <p>・ 国民がさまざまな方法で行う政治参加の意義について、民主主義と公正に着目して追究させる。</p>

- 政治参加について考える。
  - 世論とマスメディアについて考える。
  - 自分は今後どのように政治に参加していきたいかについて考えをまとめる。
    - ・若者が投票に行かないと、若者の意見が政治に反映されにくくなってしまう。なので、選挙権を得たら、必ず選挙に行って投票するようにしたい。
- 5 国会の地位としくみについて調べる。
- ★国会の、国の政治における位置づけとしくみは、どのようになっているのだろう。
- 国会が「国権の最高機関」とされている理由について考える。
  - 二院制と衆議院の優越について調べる。
  - 国会議員の権利について考える。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 国の政治のしくみで大切にされていることは何だろう。
- 6 国会の仕事について調べる。
- ★国会はどのような仕事を行い、どのように運営されているのだろう。
- 国会の仕事について調べる。
  - 国会の種類と運営について調べる。
  - なぜ法律を制定するのに時間をかけるのかを考える。
- 7 内閣のしくみと議院内閣制について調べる。
- ★内閣のしくみや国会との関係は、どのようになっているのだろう。
- 内閣の仕事としくみについて調べる。
  - 議院内閣制について調べる。
  - 議院内閣制と民主主義について考える。
    - ・日本の議院内閣制では国民が直接首相を選ぶことはできないが、国会と内閣が互いに抑制と均衡を図っているため、権力が暴走しにくくなっている。
- 8 行政権の拡大と国民の生活について調べる。
- ★内閣や公務員の仕事は、私たちの生活とどのように関わっているのだろう。
- 行政や公務員の役割について調べる。
  - 行政改革について考える。
  - 内閣の仕事と国民生活の関係について整理する。

- せる。（民主主義、公正）
  - ・「深めよう」に取り組ませることで、投票率の高い60歳代の意見は政治に取り入れられやすくなり、若者の意見を政治に反映させる機会を逃していることに気付かせる。
  - ・資料⑦からマスメディアが世論の形成に与える影響の大きさをつかませるとともに、メディアリテラシーの必要性に気付かせる。
  - ・本時の学習を踏まえ、あと3年で主権者になることを見据え、どのように政治参加していくことが必要かを考えさせる。
- 【評】今後どのように政治に参加していきたいかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 88～P. 89
  - ・国会の意義を、民主主義に着目して追究させる。（民主主義）
  - ・議会制民主主義のしくみに従い、主権者である国民の代表で構成されていることを捉えさせる。
  - ・「深めよう」に取り組ませることで、衆議院に優越があることで、政治の停滞を防ぐことにより効率よく民意を政治に反映させられることに気付かせる。
  - ・なぜ国会議員には様々な権利が与えられているのかを問うことにより、国民の代表たる使命の重さを感じ取らせたり、次時の国会の仕事の学習につなげたりする。
- ・教P. 90～P. 91
  - ・国会の仕事や運営を、対立と合意、民主主義に着目して追究させる。（効率と公正、民主主義）
  - ・資料を基に、国会の仕事は多岐に渡ることをつかませる。
  - ・年間を通じて多くの時間をかけて国会が開かれていることや、多くの手順を踏んで法案が成立していることに気付かせる。
  - ・対立を調整して合意を形成するために慎重に話し合われていることに加え、過去には治安維持法など国民を苦しめる法律があったことに触れながら、立法が慎重であるべきことを理解させる。
- ・教P. 92～P. 93
  - ・内閣の仕事や内閣と国会との関係を、民主主義に着目して追究させる。（民主主義）
  - ・内閣は、その仕事やしくみの面で、国会と特に深く結び付いていることを捉えさせる。その際、国民の代表である国会議員の中から選ばれた代表者によって内閣が構成されていることに着目させ、民主主義に基づいて内閣が組織されていることに気付かせる。
  - ・内閣が成立するまでの過程が複雑であるため資料⑥などを用いて視覚的に捉えさせる。
  - ・アクティビティに取り組ませることで、議院内閣制と大統領制を比較させ、大統領制の方がより民意を反映しているが、代わりに権力が行き過ぎてしまった場合に、立法府や行政府にそれを抑制する権限がないことを捉えさせる。
- 【評】議院内閣制と大統領制を比較し、民主主義について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 94～P. 95
  - ・内閣や公務員の仕事やその進め方を、効率と公正に着目して追究させる。（効率と公正）
  - ・行政の管轄する内容が多岐にわたることや、それによる弊害について捉えさせる。
  - ・アクティビティに取り組ませることで、効率と公正の観点から、行政改革が国民の利益につながっていることに気付かせる。
  - ・どのような課題があるかや、それに対してどのような対策がとられているのかを中心にま

- 9 法を守る裁判所について調べる。  
★公正な裁判を行うためのしくみは、どのようになっているのだろう。
- 裁判のしくみについて調べる。
  - 司法権の独立と公正な裁判について調べる。
  - 国会が制定した法律が人権に反していたらどうしたらよいのかを考える。
- 10 裁判のしくみと人権の尊重について調べる。  
★裁判にはどのような種類があり、人権を尊重するためにどのような工夫がされているのだろう。
- 民事裁判と刑事裁判のしくみについて調べる。
  - 裁判での人権尊重と、冤罪について考える。
  - 裁判での人権尊重について、最も重要だと思う工夫について話し合う。
- 11 私たちの司法と裁判員制度について考える。  
★なぜ裁判員制度が取り入れられたのだろう。また、私たちは司法とどのように関わればよいのだろう。
- 裁判を受ける際に問題になることについて考える。
  - 裁判員制度と死刑制度について考える。
  - 私たちは司法とどのように関わればよいのかについて考え、話し合う。
- 12 三権分立と政治参加について考える。  
★三権分立で大切にされていることは何だろう。
- 国民主権と三権分立について整理する。
    - ・国会は内閣に対して首相を指名したり、内閣不信任の決議をすることができる代わりに、内閣は国会に対して衆議院の解散を行うことができる。
    - ・国民は選挙や世論、国民審査によって、その意思を国政に反映させ、民主主義を実現している。
  - 国民が政治参加することに対する意義や課題について考え、話し合う。
  - 三権分立で大切にされていることは何かについて考える
- 13 私たちのくらしと地方自治との関わりについて調べる。  
★地方自治とはどのようなもので、なぜ必要なのだろう。
- 自分が住む地域の長所と短所について考え、発表する。
  - 地方自治の意義と役割について調べる。
  - 地方自治が必要な理由をまとめ、説明する。

- とめさせる。
- ・教P. 98～P. 99
  - ・独立した裁判所による公正な裁判のためのしくみとその意義を、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
  - ・教P. 98の「裁判に関するクイズ」と関連付けながら、裁判のしくみについて調べさせる。
  - ・アクティビティに取り組みさせることで、三審制により公正な判断に努めていることや、司法権の独立により法の支配を維持していることを捉えさせる。
  - ・違憲判決の例を提示し、司法権は人権を守る役割があることを捉えさせる。
  - ・教P. 100～P. 101
  - ・刑事裁判のルールを、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
  - ・民事裁判の流れと刑事裁判の流れを比較させることで、原告や検察官の有無や被告と被告人といった名称の違いに着目させる。
  - ・推定無罪の原則や疑わしきは罰せずといった考え方があるにも関わらず、なぜ冤罪が生まれるのかを考えさせる。その際、アクティビティに取り組みさせるとより冤罪への理解が深まる。
  - ・刑事裁判での工夫と憲法の条文において保障されている権利とを関連付けて話し合わせる
  - ・教P. 102～P. 103
  - ・裁判員制度の意義を、法の支配や民主主義に着目して追究させる。（法の支配、民主主義）
  - ・それらの課題を解決するために、司法制度改革が進められていることを知らせる。
  - ・裁判の判決においても主権者である国民が関与する部分が増えてきていることを捉えさせるとともに、アクティビティを通して死刑制度について考えさせることで、刑罰の意味には、犯罪行為を行った人の更正、犯罪行為の抑止、被害者感情の救済など様々なものがあることに気付かせる。
  - ・実際に自分が裁判員になったら、どのようなことを意識するとよいかについて考え、話し合わせることで、主体的に社会に関わろうとする素地を養わせる。
  - ・教P. 106～P. 107
  - ・三権分立における国家機関の役割を確認し、法の支配や民主主義に着目して追究させる。（法の支配、民主主義）
  - ・これまでの国政の学習を振り返らせ、三権同士の関係や三権と国民との関わりについて整理する。
- 【評】国会・内閣・裁判所の互いに対するはたらきや、主権をもつ国民が三権とどのように関わっているのかを整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・アクティビティに取り組みさせることで、国民が政治参加する意義や課題について考えさせ3年後の自分はどのように政治参加するとよいかを考えさせるきっかけとする。
  - ・主権者である国民が、政治に関心をもって三権に影響を与えていくことの大切さや、それによって国民のためのバランスのとれた政治の実現につながっていることに気付かせる。
  - ・教P. 108～P. 109
  - ・地方自治の意義や役割について、個人の尊重と民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
  - ・地域には多様な特徴と課題があることを捉えさせる。
  - ・よりよい地方自治を実現するためには、民主主義の考えに基づく地域住民の主体的な参加と合意の積み重ねが必要であることを捉えさせる。

- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 地方自治をよりよく運営していくためには、どうしたらよいのだろう。
- 14 地方自治のしくみについて調べる。
- ★地方自治は、どのようなしくみで運営されているのだろう。
- 地方公共団体の仕事について調べる。
- 首長と地方議会の役割について調べる。
- 首長や地方議会と住民との関わりについて説明する。
- 15 地方自治と国の関係について調べる。
- ★地方公共団体と国とのあいだには、どのような関係があるのだろう。
- 財政における国と地方の関係について調べる。
- 自分が住むまちの財政について話し合う。
- 地方分権の取り組みについて調べる。
- 16 私たちが地方自治に関わるための方法について調べる。
- ★地方自治を実現するために、私たちはどのように住民参加していくとよいのだろう。
- 住民の政治参加を広げるしくみについて調べる。
- 地域づくりにおける住民の役割や参加方法について調べる。
- 私たちはどのように地方自治に参加していくとよいかに  
ついて考える。  
・よりよい地域をつくるには、住民が主体的に社会参画  
していくことが大切であると分かったので、今後は積極  
的にボランティアに参加していきたい。
- 17 単元の学習を生かし、自分たちのまちをよりよくする  
ための方法を考え、模擬選挙を行う。
- ★自分たちのまちをよりよくするための方法を考えよう。
- 自分たちのまちの課題について話し合う。
- 課題を基に公約を考える。
- 互いに公約を評価する。  
・この公約は、子育て世代や労働者世代には必要だが、  
高齢者にはあまり関係がない。  
・こちらの公約では、地元の土地や資源を活用している  
ので、雇用が生まれたり、地域が活性化したりしてい  
てよい。

- ・地方自治の必要性について、「個人の尊重」と「民主主義」の観点からまとめさせる。
- ・教P. 110～P. 111
- ・地方公共団体の政治のしくみについて、民主主義と効率に着目して追究させる。（民主主義、効率）
- ・いくつかの仕事を提示し、市区町村の仕事、都道府県の仕事、国の仕事などに仲間分けさせるクイズ形式で学ばせてもよい。
- ・地方公共団体の仕事は、住民の生活と密接に関わっていることを捉えさせる。
- ・それぞれの役割だけでなく、執行機関と議決機関による権力分立がなされていること、互いに抑制と均衡を図りながら地方自治が行われていることに気付かせる。
- ・住民から選挙で選ばれた首長や議員が、互いにその職責を果たし、互いに抑制と均衡を図りながら地方自治を行うことで、住民の意思が地方自治に反映されていることを捉えさせる。
- ・教P. 112～P. 113
- ・地域により歳入の確保のしやすさや使いみちに違いがあることを、効率と公正に着目して追究させる。（効率と公正）
- ・地方公共団体の歳入の種類だけでなく、地域によって財源の比率に大きな差があることに気付かせる。
- ・アクティビティに取り組みさせることで、地域によって財源の使いみちに特色があることに気付かせる。
- ・市町の財政に関するデータは、ホームページで公開されている広報を調べると分かりやすく記載されている。
- ・地方財政の課題と解決方法に着目して調べさせる。
- ・市町村合併については、身近なところでは、以前に美浜町と南知多町で合併について協議されていたことなどを紹介することで、生徒の関心を高めたい。
- ・教P. 114～P. 115
- ・住民の声が反映されるしくみと、住民が担う役割について、対立と合意、民主主義に着目して追究させる。（対立と合意、民主主義）
- ・直接請求権については、資料④を基に、議会の解散やリコールなど、与える影響が大きいものについては、必要な署名数も多くなることに気付かせる。
- ・自分たちが参加しているボランティアも社会参画の一環であることに気付かせることで、今後積極的に社会に関わろうとする思いをもたせたい。
- ・住民が地方自治に参加していくことの大切さやその方法、自分との関わりなどについて、生徒それぞれの思いを記述させる。
- 【評】どのように地方自治に参加していくとよいかに  
ついて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 118～P. 119
- ・これまでに学習した民主主義、個人の尊重、対立と合意、効率と公正といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。
- ・地理的分野や歴史的分野での学習もふまえて考えさせる。
- ・課題に順位付けを行い、一番重要だと思うものに関する公約を考えさせる。その際、なぜその課題を重要視したのかという理由を明確にさせる。
- ・それぞれの公約のよい点と課題について、様々な年代の住民の立場から多面的・多角的に比較・評価させる。
- 【評】互いの公約をよい点と課題、様々な住民

○模擬選挙を行う。

の立場から多面的・多角的に比較・評価する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・公約の評価を基に、投票理由を明確にさせる

・投票結果を踏まえて、当選した首長の公約と他の公約とを比較させたり、自分の公約の問題点について振り返らせたりする。

【 備 考 】